

令和4年度 市政懇談会 1回目

- ・日 時 令和4年11月11日（金）19時00分～21時00分
- ・場 所 さぬき市役所 3階 301・302会議室
- ・出席者 市長、副市長、教育長
市連合自治会
鶴羽支会長、鶴羽副支会長、北山支会長、志度支会長、志度副支会長
末支会長、鴨庄支会長、鴨庄副支会長、鴨部支会長、小田支会長
事務局
市民部長、生活環境課長（司会）、生活環境課担当
- ・議 題 (1)市政報告（資料1）
(2)市政への提案・意見等について（資料2）

新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、人数を制限して開催した。開催にあたり事前に各自治会から意見・要望等を募集し、事務局でテーマごとに意見・要望及び回答を取りまとめ資料として参加者に配布した。

時間の関係上、全ての要望等に対する回答は書面として行い、市の課題や広く市民に関係する要望等について市長が回答した後、参加者との意見交換を実施した。

市長の回答及び意見交換の内容は次のとおり

I 統合高校について・II 統合高校等の跡地利用について

○市長の回答

統合高校には大きな問題があり、3校を統合すること、そして造田地区に建設することは県にとって決定事項になっている。これは香川県知事の交代前に、浜田知事が議会で表明したことであるが、池田知事もそれを踏襲する形で9月の議会で答弁しているので、大きな流れではそうなると思う。私は津田高の出身で、「3つの高校を育てる会」という民間の会があるが、その方と一緒に県の知事と教育長を訪問した。市民の中でも色々な意見があり、統合に賛成する声もあるが、今まで違う形で歩んできた3校を一つの校舎に押し込んで、魅力ある学校ができるのか、また、コロナ禍で財政状況が厳しい中、無理をして令和10年に開校するのであれば、今あるものを使い切って、そこからそれしか選択肢がないとなってからやってはどうか、という意見もある。

これらについて、残念なことに県立高校であることから意見することしかできない。急がなくてももう少し状況を見ながらやってはどうか、全国的に子どもが減少する中、今の津田高校より生徒数が少ないが存続できている徳島の高校のような例もあるので、もう一度議論してはどうかと提案しているが、造田地区ですでに説明会が開かれ、これから地権者の方々と具体的な話をしていくという段階に入っている。開校準備委員会というものもあるが、そこで意見を聞くといいながら、大筋については県は変えるつもりがなく、造田地区に新校舎を建設することになると思われる。自分の力が及ばないところに、どうすれば多くの市民の方に納得いただける結果になるのか、そういったことを考えている。開校準備委員会や、長尾土木事務所に配置された用地買収の職員等からの働きかけを待ちながら、どうするか考

えていきたい。

また、造田支会から周辺整備の話が出ている。新高校が造田地区に建設されれば、JR 造田駅から、少し遠いが、ことでん長尾線からも通学できるようになる。そうすると交通事故の防止や、道路の拡張の話が出てくることが予想される。加えて、より大きな話として、跡地利用の話がある。石田高校は一部施設を今後も利用する予定だが、本校舎については、3校すべて空くことになる。大きな更地がいきなり生まれても、なかなか有効な利用法というのが出てこない。特に津田の方々が心配されているのが、旧県立津田病院が廃止されてから手を付けられないまま10年以上放置されており、廃墟化しているのを、県に申し入れしている状況がある。いずれ除却いただけるものと信じているが、津田高校の跡地もそうになってしまうのではないかと懸念されるところである。市が買い取ればよいが、除却費用に約2億円かかるということで、難しい。先月10月11日の池田知事の答弁において、「統合後の志度高校や津田高校などの校地の利活用については、さぬき市のまちづくりの観点も踏まえ、地元の方々の御意見も伺いながら、県として責任をもって利活用方策についてまとめてまいります」とある。聞いたところによると、答弁の原案では「県として責任をもって利活用方策についてまとめてまいります」との文言はなかったそうである。知事の勉強会の場において、県としてもう少しかかわっていくべきではないかという発言があったかなかったかはわからないが、この答弁が公のものになった以上、跡地利用について県としても積極的に取り組んでいただけるのではないかと期待している。

○意見交換

【鶴羽支会】

県立高校の統廃合については、以前から住民の中で噂話としてあった。県立津田病院がなくなった段階で、次は津田高ではという話がどことなく漂っていた。今年6月の県議会において、浜田知事が統廃合を行うこと、そして造田地区に建設予定であることを明言された。池田知事もそれを引き継いでいる。住民にとっては寝耳に水とまでは言わないが、あまりに一方的ではないかという感想を私の知る限りでは多くの方が持っている。本来ならば県に直接言うべきではないかという気もするが、あえてここで言わせていただく。

津田病院の跡地利用については、市長の言うように放置されているのが現状である。旧官舎については誘致された企業の社員寮として活用されているが、本体の建物は手を付けられていない。統廃合の話と同じで、本来ならば県が責任をもって対処すべき問題だが、やはりこの場で言わせていただきたい。老朽化に伴って、倒壊まではいかずとも、外壁が剥がれるなどの危険が考えられるので、何らかの手は打たないといけないだろうと思う。

また、少子化や人口減の話になるが、鶴羽地区は保育所・幼稚園・小学校・中学校がない地域である。銀行もすべて撤退し、病院も津田地区に移転したため、残っているのは郵便局と老朽化が進んだ多目的研修施設しかない。生活するうえでも、災害時の避難所等の問題でも、非常に不十分な地域になる。老朽化した公共施設をすぐに建て替えてほしいという要望もあり、財政の問題もあると思うのでなかなか強くは言えないが、教育の面と、住民の安心安全という面で、地域住民は不安を抱えている。

【市長】

防災については後半のテーマで扱うと思われるので、津田高校に関係するところについて

話させていただく。住民の方が避難する際に津田高校でということをしていたので、県の対応によっては避難場所が失われるということになる。避難場所を確保するために、津田高校の建物を県が維持管理費がかからない形でいただけるのであればそれを利用し、それができなければ何らかの避難設備をつくっていかねばならないと思う。

学校の統廃合について、市民の方々への周知が足りなかったという問題については、県教委としては、学校の先生や、地元企業の方に集まっていただいて何度か説明会を開催しているが、そういった団体と関係がない一般の方からすると、唐突に統廃合が進められたような印象を受けたと聞いている。市民の方の市政への参画を今まで以上に進めていこうとしている中で、情報提供と説明責任を果たしていくことが大切だと考えているので、今回の統合をどう進めていくかという検討課題が未だ残っているが、市民の方にしっかりとお知らせをした上で、御意見を集約して県に伝えていく、というようなことを特に注意しながら進めていきたいと考えている。

【鶴羽支会】

住民の一人としては、主体が市になるのか県になるのかわからないが、住民が夢と希望が持てるような展望を語っていただきたいと思う。とりあえず何かに利用します、のような漠然とした話ではなく、希望がある話をしてほしい。

【市長】

跡地については、「県として責任をもって取りまとめてまいります」との知事の発言もあったが、県だけに頼ると向こうのペースで物事が進んでいくので、その中で可能な限り市が主体的に介入していけるような手法を考えていきたい。

III 徳島文理大学の移転について

○市長の回答

徳島文理大学は昭和58年に開学されて40年近く旧志度町、そしてさぬき市の地域活性化について学生の教育を通じて大きく貢献していただいている。皆さんの正直な気持ちとして、移転を市長がいつ聞いて、それに対しなぜ引き留めなかったのかと思っている方が一定程度いらっしゃると思う。これについては、平成30年、4年ほど前に、理事長さんのおいでで、実は高松市への移転について、JR四国の土地に建てるということで、高松市とJRとの協議に入っているとの報告を受けた。初めに、理事長さんに今からさぬき市と協議して移転計画に変更を加えることは可能ですか、と尋ねたが、これは決定事項であり、本日は報告に来たという回答だった。

それから公表に時間がかかったのは、ご存じの方もおられると思うが、ある健康施設が借地の契約が切れることを機に撤退することになり、その跡地を移転先とすることになったため、用地としては狭小ということがある。その上に十数階の建物を建てるには、建築基準法の中で、特例の容積率を高松市が認めない限りは建築できないということになっている。それを今高松市と調整中であるので、絶対に部外秘にしてほしいという要請があった。議会に報告しようとも思ったが、これは私の個人的見解も入るが、このさぬき市で続ければ倒産します、ということで来られたこともあり、このまま潰れるようなことになるのであれば、市が足を引っ張るようなことになるよりも、まだ志度との関係を維持したままで移転していた

だくのも一つの方法かと思った。しかしできれば、高松では建築できないということで、さぬき市で続けていくので市にも協力してほしいという展開になることを期待していたが、それは私の考えが甘かったのかもしれない。

土地代に加え、十数階の建築をするので、公表されていないため定かではないが、200億円といったお金がかかっていると推測される。そこまでのお金を投資してなぜ高松に移転するのですかと問うと、生徒が集まらないのだと。香川県だけの生徒ではやっていけないので、四国や岡山からも来てもらわないといけないと。現在のキャンパスでも、岡山からマリライナーを利用して通学している生徒がいるが、それを高松でということになれば、多方面からの生徒の増加が見込めるのだという話であった。

私は生意気にも、大学を距離だけで選ぶ人は少ないのではないかと、中身さえ充実していれば、遠方まで通うのではないかと失礼なことを言ってしまった。徳島文理大学について皆さんが誤解されていると思うことだが、教員の方々は高齢化が進んでいるが、一流の人が揃っている。なぜ一流の人を呼べるかという、民間の研究施設等で定年を迎えた、まだまだ働けるが行き場のない方を呼んでいる。大学で研究していた人ではなく、民間の研究施設の第一線で活躍されていた、すぐに役立つような知識と経験を持つ人が在籍しているということになる。統合高校の話になるが、例えば薬剤師を目指すコースがある。薬剤師になろうというときに、国家資格であるから、何々大学で取った資格である、というのはついて回らない。それならば、県外に出て高いお金をかけて資格を取るよりも、地元で先生も一流、設備も一流という環境で取るほうがよいのではないかと、ということで、三校の校長先生らに文理大学を生徒に紹介してもらおうよう頼んだこともある。しかしこれは日本の悪いところだが、中身よりも外見を気にして、同じ薬剤師でもどこの大学で資格を取ったかで社会的評価が変わると主張する方がいるので、その時代は終わったのだと、これからは手に職ですよと伝えて、先生方には納得してもらったが、保護者の方の中には大学のネームバリューを気にする方がいて、結局は生徒数を確保できないという状況になっている。そのような中で、当時の理事長は、このまま座して死を待つよりは、高松でもう一度建学の精神をいかしたいということだった。その結果、いよいよという段階になったので、まずはお詫びしたいと思う。私にもう少し力があれば、文理大を引き留めることができたのではないかと反省している。しかし、お金の問題ではないと言われたときに、やはり難しいなど。

その次に、あれだけの土地と校舎があるので、跡地利用を何か考えなければということで、現在進行形で理事長と調整中である。しかし、大学の意向として、あの土地に何か建物を建てるようなことは考えていないという。場合によっては、市が仲介する形で土地や校舎を民間に利活用してもらってはどうかと何度も打診しているが、その都度現段階では市にも売らつもりはないというので、ではどうするのかと聞くと、高松の学生が体育や実習等で利用するとのことだった。理事長はその利用方法で強い意志を持たれているのだろうが、そこまで利用頻度が高いとも思えないので、あれだけの生徒数がいて、二重の管理経費が嵩むのであれば、周囲の事務に携わる人々は、どこかで管理してもらえればという考えに至るのではと思うので、市が間に入ってよいのであれば検討されてはどうか、という話をこれからしていくことになると思う。

建物が大きすぎるために、一棟であれば使えるが、まとめて借りるとなると費用対効果が

悪いという問題もあるので、今は市の方で、理事長が考えている使い方を阻害しないような場所を教えてくださいと頼んでいる。この棟はよいということになれば、市の方でその場所を欲している民間業者等を探しに行きますから、と。そこまで話をしているが、移転があと2年と少しに迫っているのにもかかわらず、具体的な話は決まっていないのが実情である。大学の立地が高台にあるので、高松の市街地等では操業に周辺トラブルが懸念される企業などからは、是非利用させてもらいたいという声も聞かれるが、うまくマッチングできていない。一部でもよいので、事前協議の上使えるということになれば、道が開けるので、何とかうまく跡地を利活用したいと考えている。

また、かなりの数の学生が出て行かれるということで、「さぬき暮らし応援補助金」というものを創設した。家賃の一部を補助するもので、ひとまず2年間実施して、例えば高松に通学するようになってもさぬき市に住み続けてもらえるようになるといった効果があれば、応援補助金で支援していきたい。また、医療大学の学生も補助金の対象にしているが、不動産関係者からももう少し医療大学の定員を増やしたり、志度から通いやすくしてほしいといった要望があったので、商工会を通じて関係各所と調整している。既存の賃貸住宅等が利活用でき、それを利用するような人たちがあの場合に集まるようなものを模索しているが、建物が大きすぎるといふことがあるので、民間の研究機関が一棟でも入ってくれるような成功例を一つ作って、関連する機関が連鎖的に入ってくれるようなよい連鎖を作りたい。市の方としても、学校法人は固定資産税が非課税であるから、民間が買ってくれるようなことがあれば、固定資産税が入るようになるので、今まで入ってこなかったお金が入ってくるようになる。賑わいの面でも財政の面でもプラスになる話なので、そういった方向で考えていきたい。

ナノ工学といった分野の話になるが、高額な研究機器がほとんど高松の方に持っていけない。精密機器であることから、トラックなどで運搬すると精度が狂うので、新しく購入したほうがよいということになって、まだ使える機器がそのまま残されている。民間企業で、新品を買うのは難しいが、安く使えるなら是非というところがあると思う。期限も迫ってきているが、成功例を作ろうと取り組んでいるところである。

IV 公共施設の管理・運営・跡地利用について

○市長の回答

先ほど鶴羽地区の話も出たが、多くの施設がなくなっていく状態、どうやりくりしていくかというのは大変難しい問題である。北山支会からの意見の③にもあるが、津田の松原には道の駅があって、今若い人たちが中心になって、さぬき市津田地区まちづくり協議会という一般社団法人を立ち上げて活動されているので、そういった団体に支援をしていくことで、それを突破口として津田の松原を自由に使えるような施策を、県とも協議しながら考えていきたい。

建物が老朽化して行って、津波や浸水に備えて2階建に立て直すという御要望もいただいている。旧町時代に、隣町にあるのでという理由で類似の施設が多く建設され、そのツケを今の人が払っているという状況である。施設整備には多額のお金がかかるが、過疎地域の指定を受けたこともあり、計画を国に提出すれば、合併特例債のような有利な起債ができる。一番効果的なものを整備することによって対応できればと思う。過疎対策事業債については、

資料8ページに詳細を載せている。

○教育長の回答

多目的研修集会施設、津田公民館・津田体育館についてですが、本年度から志度と長尾の建設事業をスタートしていることから、公民館等の施設に対する関心が高まっており、各地区の公民館の今後について要望等をお聞きしているところである。まず、津田の多目的研修集会施設については、昭和60年に建築され、築37年が経過している。津田公民館と津田体育館は、1階と2階の構造になっているが、昭和55年に建築され、築42年となっている。これらの施設については、それぞれの利用状況や老朽度合いを考慮しつつ、財政の状況も見据えながら、優先順位をつけて順次整備したいと検討したい。また、今後具体的に検討する中で、地域の皆さまの御意見を伺う機会を設けつつ進めていきたいと考えている。

○市長の補足説明（過疎債について）

過疎債については、旧町内で言うと津田と大川だけが指定を受けており、その他の地区についてはこの特例を受けることができない。本来なら、中心的な寒川などで過疎債が使えればもう少し効率的な施策ができると思うが、今のところ津田と大川のみであるから、それらの整備に使っていく。両方をというのは難しいかもしれないが、共通のものを整備できれば、実現は早いのではないかと思う。

VI 農業（有害鳥獣）対策について

○市長の回答

有害鳥獣の中でもイノシシと猿が群を抜いている。イノシシについては、他市町では町中に出没して人に噛みついたりしているようである。猿も身軽であるので、バリケードをしてもその上を飛び越えてくる。これらの被害については人里に寄り付かないようにすることと、個体数を減らすという対策があるが、猟友会の方々の協力を得て、個体の駆除や捕獲用の罠の設置等を手伝っていただいている。御存知の通りイノシシは多産で、駆除してもすぐに次の個体が生まれてくるような状況であるので、粘り強くバリケードによる対策と個体数の削減を続けているところである。捕獲奨励のお金があり、金額を増やしてはどうかという意見もいただいているが、本来ならば国の予算を超えるとその年は追加がないものを、有害鳥獣については柔軟に対応していただいていると聞いている。猟友会に入るための資格取得の際に経費を一部補助するほか、県が毎年開催している捕獲技術講習等への積極的な参加を推進しているところだが、なかなか効果は上がっていない。

猿については、群れをつくる習性がありボス猿を捕獲してしまうと統率が取れなくなって、群れを離れた猿が広範囲で狼藉をはたらくということがあるので、県の研究にも参加させていただいて、猿に限らず被害を抑えたいところだが、猿も賢いのか思うような成果が上がっていない。しかし、中山間地域で農業をされている方の中には、収穫の前日の晩に猿やイノシシが来て作物を台無しにされ、意欲が失せていくといった話も聞くので、人間が諦めることなく、有害鳥獣に対応していきたい。

X 市民（窓口）サービスについて

○市長の回答

出張所の開所日を週2日・3日にしてから、様々なところで御意見を聞くところである。現在はできるだけ具体的にどういった状況でどういったことに困られたかというのを聞き、都度改善できるところはしているが、大きい流れとして、出張所については週2日・3日で御協力をお願いしているのが現状である。これについて、IT等を活用しながら、直接出張所に出向かなくても行政のサービスを受けられるようなデジタル化を行き渡らせるのは難しい。マイナンバーカードについては、皆様の御協力もあり、一時的にはあるが国の指導団体からは外れている。ただ、平均取得率については逐次報告を求められているので、市民課の休日開庁や、カード作成の出張サポート等を進めている。マイナンバーカードを利用して、「書かない・待たない窓口」の実現を目指したいということがあるので、週2日・3日の開所日については御協力をお願いしたいが、こういうことで具体的に困っている、というのがあれば具体的な御意見をお聞きしたい。

○市長の補足説明（IT化について）

三豊市では2年前からDX（デジタル・トランスフォーメーション）を盛んに取り入れており、民間企業と連携して役所に行かなくても手続きができるようになってきているので、日本の中でも注目を浴びている。さぬき市も勉強として視察に行かせていただいた。2年ほど後だったと思うが、全ての市町村でシステムの標準化をしようということが計画されているので、先行的な取組を行っても標準化されたシステムと噛み合わなければ全てやり直しになり損失が大きいということで、標準化の方向を見定めてからということになり、今のところさぬき市はDXができていない。できるものは全てデジタル化していきたいと考えているが、システムの導入にどれほどのお金がかかり、またその保守点検として何年毎にどれほどのお金がかかるのか、そういった情報をできるだけわかりやすく市民の方にお知らせして、高くてもいいからやりませんか、という方向で話がまとまればDXも進んでいくのではないかなと。できることから進めていくが、長寿命化ができるシステムを活用するなどして、損失が少ない方法でデジタル化を検討していきたい。

○意見交換

【鶴羽支会】

私個人としては、出張所の開所日を減らしたことを逆戻りさせる必要はないと思う。ただし、月に1、2回でもいいので、閉庁時間を遅くすれば手続きがしやすい。仕事をされている方は高松で働かれている方が多いが、5時15分までに津田へ帰って手続きをしようと思うと休暇を取らなければいけない。休もうと思っても急な仕事ですぐに帰れないこともある。そういったことから、月2回でもよいので時間を延長してほしいという要望が出ていたので、以前市に要望したが、実現していない。

【市長】

日本の役所組織で一番悪いところに、みんな一緒になければならないというのがあり、開庁と閉庁の時間を揃えている。例えばコア時間を作って、10時から3時くらいをコアにして、それ以外の時間は自治体の実情に合わせて柔軟に選べるようになれば、もう少し多様性に対応できると思う。ただ、一番困っているのが、広域化されているので、他市町と情報をやり取りしようとなったときに、一方が閉まっているとなると弊害が大きいので、国がそうならないよう指導している。しかし今後デジタル化が進めば、人の手を借りなくても多くの

ことができるようになり、開庁時間についても融通が利くようになると思う。市町によっては土曜開庁や、6時7時まで開庁しているようなところもある。例えば今マイナンバーカードの申請サポートで日曜開庁を行っているので、その類型として、7時まで開庁するようなことを検討するよう担当課に指示する。ただし、無用な混乱を招かないよう曜日や場所を固定して、周知に努めたい。

IX 人口減少対策について

○市長の回答

一部を除き、全国的に人口は減少しているので、人口減少対策というのは、増加対策ではなくて、減少を緩やかにしていくということが現実的だろうと思っている。減少を防ぐには、定住人口で言うと、子どもの出生率が上昇することと、移住をしてもらうということがある。移住については、今の住民基本台帳法では一カ所の住所しか認められていない。平日に東京で働いて、週末は必ずさぬき市に帰ってくるような場合、住民票が分けられれば2日分だけ住民税を納めてもらうことができるが、住所をふたつ持てないということが税金の面ではネックになっている。どう按分するかというのは大問題になるので、今国に進言しても相手にされないが、大切なのは本人の実態に合わせた制度を作っていくことだと思う。

残念ながら、さぬき市は合併後から1万人以上人口が減少している。以前は高松のベッドタウンとして人口を増やしていこう、という動きもあったが、ただ人口が増やすだけで人間が幸せになれるとは私は考えていないので、子どもを産みたいが、例えば経済的な理由があってできないといった家庭を支援して、子どもをもてるようにするような少子化対策を是非やっていきたいと思う。もうひとつは、お子さんを持っている方が、子どもが今の学校に馴染めず不登校になっているところを、さぬき市に来て、いろいろな人を受け入れてくれるような幼稚園、小中学校があって、子どもが高校へ行くまではさぬき市に定住してくれる、そういったことを目指して、子どものひとつの選択肢となるような施策をしていきたい。県がしている「かがわ縁結び支援センター（EN-MUSU かがわ）」のような、所謂「婚活」のような男女の出会いを援助するのもひとつの方法で、さぬき市の商工会が婚活で若い男女を集めて交流してもらい、結婚が成立したら記念品を渡して応援するといった、婚活応援事業をやっているので、今後も支援していきたい。

若者会議については、津田地区で若者が一般社団法人を作って盛り上げていこうという動きがあるので、どんどん応援をしていきたい。もう少し広い範囲で、若者会議の実現を検討しているが、メンバーを集める際に公募するとなると、一見公平でよい方法のように思えるが、公募していただいた方をどのような基準で選ぶのか、という判断が難しい。実際に活躍されている若い人を半分として、それに公募の方を半分添えるようなやり方がいいのではないかと、とプロジェクト推進室のほうで考えているので、できるだけ早くこういった方を呼ぶか検討していく。

若者会議の権限をどうするか、という問題があり、例えば議会と市長と若者会議で意見が食い違った場合、誰がどう責任をもって優先順位をつけるかということがあるので、議会とも相談しつつ進めていきたい。自分の意見が市政に反映されるようになれば、選挙に投票してくれるようになり、生きがいになって地元に住もうという良い相乗効果が見込めることか

らも、若者の意見を聞くのは大賛成なので、前向きに検討していきたい。

○意見交換

【鶴羽支会】

人口減対策は、生まれたら支援するというのでは不十分だと思う。若者が結婚に価値を置かず、パートナーがないという問題もあるので、結婚前の段階に重点を置かないといけな
いと思う。愛知県新城市では、条例に基づいて高校生や20代の市内在住者で若者議会を作
っており、毎年まちづくり政策をまとめて市に提案をしている。その提案が市議会で承認され
れば、1,000万円を上限に予算化してるので、参考になる。子ども議会などの名前で中
学生や高校生を集めるのはどこの市町でもしているが、これは単発であり、常設の機関であ
るということが重要である。成人式で実行委員会を作っているの、しようと思えばさぬき
市でもできるはずである。

今の議会では、定年後か自営業の人しか議員になれないという問題がある。これでは勤め
人の意見は議会に反映されない。難しいとは思いますが、夜間議会や日曜祭日議会といったもの
を長期的には検討すべきである。また、現在の議会は出たい人が出る議会になっており、出
てほしい人が出られない議会になっている。旧津田小学校校区には現在議員がいない。市民
の意見としてはあの人に出馬してほしいというのがあるが、選挙運動にお金がかかりすぎる
ということがネックになっている。お互いに議員になろうとする人が、申し合わせて選挙活
動に費用がかからないようにしていくことが長期的には大切なことではないかと思う。

【市長】

私も先日東京で全国大会に出席したが、途中で国会議員が入ってきて、先生がおいでまし
たということで司会者が紹介、拍手する時間があつた。手を叩いている人を見ると地元の
方が多く、これでは国会議員が多すぎるという批判を招くなと思ったので、途中入場は紹介
しないといった対応も必要かと思っているが、必ずしも議員の数が少なければよいというこ
とでもない。少なくしすぎると、多様な意見が集まってこなくなるので、議員定数を削減す
ることが行政改革にもなつてよいという意見には賛同しない。さぬき市議会議員の選挙区は
さぬき市全域ということになっているが、実態的には多くの議員ごとにより小さな選挙区が
あり、地元のことをもっとしてほしいという要望が多くなる。先行できる地域を先行させれ
ば、効果が波及してさぬき市全体が良くなるはずと申し上げているが、議員の宿命として地
元を尊重しなければならないというのはある。志度や長尾のことばかりして、それならば志
度市にしまえばいいんだ、と怒られることもあるが、議員の問題というのはやはり難し
い。ただ、多様な意見を吸い上げられる議会であつてほしいと思う。

選挙活動の経費については、あまりお金を使わずにされている方も多くいる。お金を使わ
なければ票が集まらないと議員が思うのか有権者が思うのかわからないが、そういった事態
に陥らないようにするために、有権者に投票を呼び掛けるのをやめたらどうか、とも思っ
ている。そうすれば、投票するから出馬してさぬき市をなんとかしてくれ、ということで選挙
に出る人が増えれば、責任感を感じて生半可は活動はできないと思うし、そういった風潮は
大切だと思う。それぞれ1000人以上の有権者の支持を得て出てきているので、一人一人
を大事にしていかなければと思うが、出たい人よりも出したい人が来るようなことになつ
ていないようであれば、それに近づけていく努力はしていきたい。

【鶴羽支会】

東京大学の調査では、国会で夜間議を開いている国が数は少ないが増加傾向にあるという。もう一度言うが、働き盛りの勤め人の意見が議会に反映させることを考えないと町の発展は望めないと思う。

【市長】

我々は昔から続いていることを当たり前だと思いついでいる節がある。議会を昼間にするものだと思っていたら、時代に後れをとるかもしれない。その場その場で意見を聞けるように、日曜の昼間であっても、そうしたほうがよいのであればそうすればよい。実際にそうしている自治体も出てきているので、いただいた御意見を議長に伝えたい。議会の名誉のために申し上げますと、議会も新たな取組をしていこうとしているところであるので、責任をもって伝えさせていただく。

【小田支会】

人口減対策ということで、小田地区には移住者が何人も来ており、すぐに使えるような空き家はないですか、ということ聞かれている。何軒か紹介するが、補修しなければ使えないことも多い。空き家バンク制度等もあるようだが、空き家を求めてきた人に対する補助金等の精度がどうなっているかというのを心配している。安く空き家を買えたとしても、その後の補修にお金がかかりすぎるという話をよく聞くので、今数人に紹介できるよう手配しているところだが、市からのサポートを充実させてほしいと思う。

【市長】

これからさぬき市が生き残っていくためには、人も物も今あるものを使い切らなければならぬと思う。困ったら新しくするという風潮があるのは悲しいことで、これ以上使えないとなってから新しくするくらいのことがある。空き家はそこに住んでいては生活できないから発生していることを理解し、住環境全体を整えなければ、いくらハード（家）をきれいにしても人は集まらない。空き家バンク制度と、空き家に対するリフォームの補助金制度はあるが、それで空き家に住めるようになるほど制度が充実しているとはいえない。「空き家投資」という言葉があるが、若い人が空き家を買ったり借りたりして最低限のリフォームをし、更に人に貸すということがある。結婚願望がなく、年金だけでは暮らしていけないので、自分が元気な間に空き家を買って、整備したうえで人に貸すことで家賃を貰いながら自分のやりたい生活をする、という人たちがいることを考えると、空き家を活用すべきという提言は非常に貴重だと思う。空き家バンク制度は、民業を圧迫してはいけないということで、業者に一任しているところがあるが、一定の要件を満たすものについては、市が政策的に移住者を募集するようなこともひとつの人口減対策になると考えている。例えば大阪に住んでいる人が、土日は必ずさぬき市の古民家に住んで、平日はまた大阪に帰る、というようなことがあれば、固定資産税に加えて土日の生活費も市に入ってくる。所謂定住人口ではないが、少しでも交流があれば、それを糸口に交流の割合を増やして、この自然の中で子育てしたいとか、交流の割合が一定に達したときに、移住してもらおうといったような、緩やかな考えをもって、地域の中で暮らしてくれる人を大事にしたい。小田などは、有機農業や漁業に関心をもった若い人が集まるので、何らかの支援をして、更にその住まいとして空き家対策を推進していきたい。人と物をもっと有効に使って、これ以上はということまで使

い切っていきたい。

【小田支会】

小田で空き家を探している人の中には、住むところがなくて高松から通っている人もいる。空き家に関する補助の情報発信を増やしていただきたいのと、民間業者が仲介するとどうしても割高になるということがあるので、若者の負担を減らせるよう検討してほしい。

V 社会基盤整備について

○市長の回答

さぬき市には子どもが安心して遊べる公園が少ないという御意見は多くいただいている。市内で利用できていない土地を、ポケットパークとして整備できれば、子どもの遊び場になって大変良いことだと思う。みろくでイベントに参加したときに、滑り台などで多くの子どもが遊んでいた。安全面からすべての遊具を整備できていないが、フィールドアスレチックなどもあり、遊ぶ場所としては申し分ないと思うので、それをより小さな規模で広げていきたいと思っている。維持管理は地元で行うので、土地を市に寄付して公園を作ってくれないか、という話はあるのかもしれないが、私のところまでは上がってきていないので、相談いただけたらと。

また、少子高齢化が進み、ある地域では今年は新入生が一人もいなかったということがあって、子ども同士が外で遊ぶようなことが少なくなっているのかなと。親御さんにしても、交通事故等が怖いので、家の中で遊ぶようになってきているのかもしれない。実際、学校から帰り次第荷物を家に放り込んで、夕飯の時間ギリギリまで子どもが外で遊んでいたような時代を知っている人からすれば、子どもが学校以外で友人と遊ぶことは間違いなく少なくなっているだろう。そういう意味では、いつでも遊べる安全な遊具があることは少子化対策に通じると考えている。しかし、かつて都会の、市立の公園だったと思うが、子どもが怪我をするということがあった。裁判で市の過失が認められてしまったので、全国的に少しでも危ない遊具をすべて撤去しようという動きが出てきた。今の日本の悪いところは、何か悪いことがあった時に、とにかく原因を取り除こうとして、再発防止の工夫がない。遊具も使い捨てのような風潮があるので、ポケットパークについては今一度活用を検討していきたいと思う。

○意見交換

【鶴羽支会】

私は人口減少対策として宇多津町が非常に参考になると思う。宇多津町は、将来推計で県内で唯一人口が増加し、高齢化率が30%程度にとどまると予想されている、中四国でも稀有な自治体である。面積は香川県最小だが、計画的に臨海部に若者向けの住環境を整え、都市公園を整備している。高松からさぬき市に転入された方は、さぬき市にはいよいよ都市公園がないですね、としみじみと語っていた。市が新たに土地を買うとなると莫大な費用がかかるが、鶴羽地区であれば旧鶴羽幼稚園を活用したらよいと意見要望に書いた。鶴羽幼稚園には既に遊具があるので、保護者用のベンチを置くだけで公園になる。ドルフィンセンターへの道中にあるので、お客さんにも提供できる。遊具が足りなければ、東部児童館の遊具を持ってくればよい。

どういふわけか、廃校になった小中学校の跡地は話題になるが、廃園になった幼稚園の跡地はあまり話題になっていないように思ふ。私の孫も、毎週末親がとらまる公園や牟礼の道の駅の公園に連れて行っている。東部に行かなくても子どもを遊ばせることができるような児童公園がほしいという切実な願いを親御さんは持っている。

【市長】

先ほどの話の延長になるが、使えるものをもっと使うという意味では、建物は別の用途があるが、運動場を憩いの場にするというのは一つの方策だと思ふ。地元の方の意見を伺っていきたい。ただ、最近は両親に余裕がなくなって、平日は児童クラブなどに預けるなどしてなかなか子どもと触れ合えないということになっているので、休日の親子の交流が重要になっていると思ふ。安全なところで子どもがのびのびと遊べるということは、その子にとっても社会にとってもプラスになると思ふので、どういふ要件があれば公園を作っていけるか、今後検討させていただきたい。

(閉会)